

徳島県における 阿波藍の 産業構造とその課題

2000年代以降を中心に



谷 学人（徳島県立城西高等学校神山校・元東京農業大学）

茂木 もも子（東京農業大学）

研究の背景

日本の藍は「JAPAN BULE」として世界に知られ、徳島で生産させる藍は「阿波藍」とよばれている。徳島県は日本国内でも有数の藍の産地であり、日本の染織文化を支えている。

日本社会が高度経済成長を迎えたのを機に化学染料や化学繊維が普及し、藍の生産規模は縮小していた。他方で、近年、藍の栽培面積や栽培戸数が増加傾向にあることを確認できる（図1）。

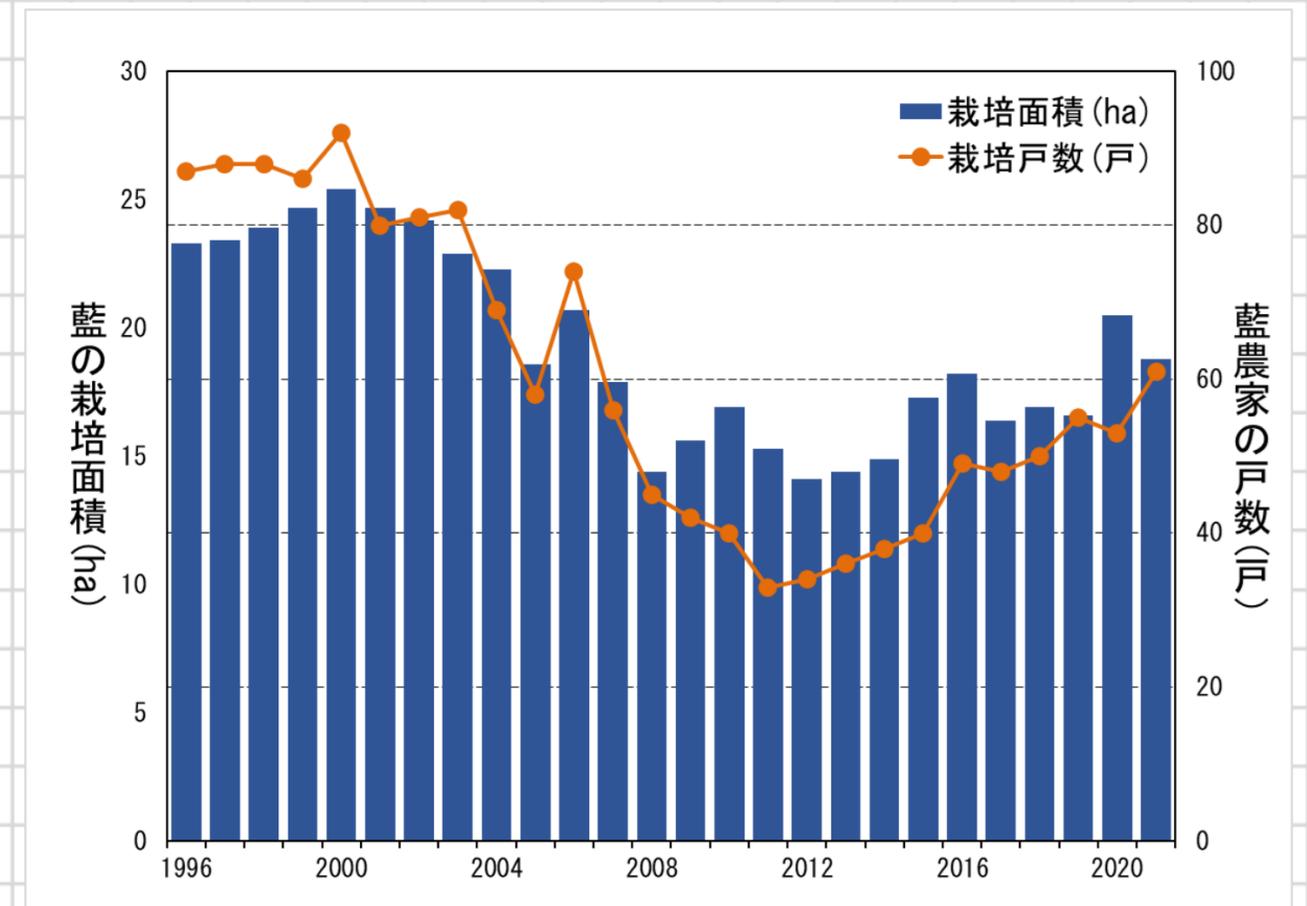


図1. 徳島県における藍の栽培面積・栽培戸数
(令和5年3月現在)

資料：徳島県農林水産部「藍の統計概要」
注：資料をもとに筆者作成

先行研究レビュー

1. 鍛冶博之 (2021)

現代徳島における阿波藍の衰退と振興「社会科学」

- 徳島県の代表的産物である阿波藍に注目し、1940年代後半から2010年代に至る動向と課題を考察する。

2. 舩田晃, 真野洋介 (2015)

「伝統的工芸品産地における若手従事者及び従事者組織の地域まちづくりに対する役割
-富山県高岡市を対象として-」『都市計画論文集』50巻,pp.953-960

- 若手従事者による青年会組織の会員による取り組みの発生経緯と地域での展開プロセスを文献調査とヒアリング調査により明らかにし、**産地における若手従事者の地域的役割を考察する。**

先行研究レビュー

3. 大木裕子 (2012)

「有田の陶磁器産業クラスター：伝統技術の継承と革新の視点から」

『京都マネジメント・レビュー』 21巻,pp.1-22

- 有田の陶磁器産業について要素条件や需要条件、関連産業・支援産業などから、有田の陶磁器産業クラスターの現状について分析する。

4. 前川洋平, 宮林茂幸, 関岡東生 (2013)

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律の効果と課題」 『東京農業大学農学集報』

58巻,pp.85-91

- 伝統的工芸品の動向（生産額、企業数、従事者数等）から伝統的工芸品産業の振興に関する法律が果たしてきた機能について分析・考察する。

研究の目的

鍛冶（2021）の調査では、阿波藍の産業課題を指摘している（表1）ものの、その分析については、**状況を羅列したのみで統計や構造を把握したうえでの議論**となっていない。

目的

本研究では、阿波藍の生産に関わる主体の取引状況を含む**産業構造を把握**するとともに、**産業展開や今後の課題**を明らかにすることを目的とする。

表1. 阿波藍産業が抱える現代的課題

課題1	阿波藍の製造技術の伝承が困難である
課題2	生産者の高齢化が進行している
課題3	将来の阿波藍製造を担う若年の後継者が育成されていない
課題4	阿波藍を工業的手法により大量生産することが困難である
課題5	生活者による阿波藍の日常的消費が抑制されている

資料：鍛冶博之「現代徳島における阿波藍の課題と振興」
『社会科学』（2021）
注：資料をもとに筆者作成



用語の説明

➤ 阿波藍

徳島県で伝統的な技法により生産された、タデ藍を原料とする染料「すくも」

➤ 藍師

タデ藍からすくもを製造する職人

➤ 沈殿藍

天然の藍染料一種であり、すくもより価格が安く、製造が容易である。

近年、徳島県の研究センターで高品質な沈殿藍に関する研究が進められ、タデ藍の新たな活用方法として注目が集まっている。



分析枠組・調査方法

分析枠組

➤ 産業組織論（ダイヤモンドフレーム）

特定産業の集積を「**クラスター**」と考え、クラスターの基盤となる**需要条件**、**生産要素条件**、**企業戦略・構造・競合関係**、**競合環境**、**関連産業・支援産業**とし、**産業の状況を整理する**。本研究では、このダイヤモンドフレームを基本的枠組として採用し、徳島県における藍産業の産業構造を分析する。

調査方法

ダイヤモンドフレームに従い、主体とその機能を聞き取り調査及び統計資料調査により把握する。また、藍染め工房を対象に現状把握のためのアンケート調査を実施する。

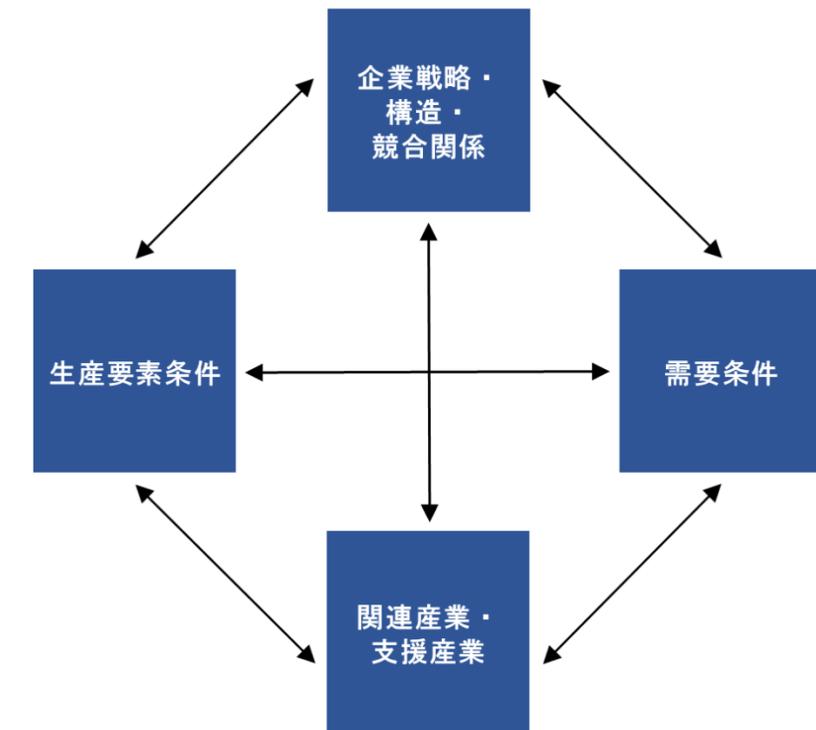


図2. ポーターのダイヤモンドフレーム

出典：マイケルE. ポーター（2018）、『[新版]競争戦略論Ⅱ』ダイヤモンド社, p. 16.

調査対象地：徳島県

本研究の対象地は、徳島県とする。徳島県は四国の東部に位置し、約8割を山地が占めている。2019年の藍の栽培面積は16.6haであり、全国1位の栽培面積となっている。また、徳島県では、7月を「とくしま藍推進月間」、7月24日を「とくしま藍の日」としており、様々なイベントを通して藍の魅力発信に取り組んでいる。



「藍とくしま」ロゴマーク



組藍海波紋

出典：徳島県ホームページ



研究の対象①：藍産業の関係主体

先行研究や聞き取り調査などにより藍生産に関する主体を図3の通りに整理した。本研究では、徳島県の藍産業に関わる主体として、「行政」「支援団体」「生産者」「需要者」を対象とする。

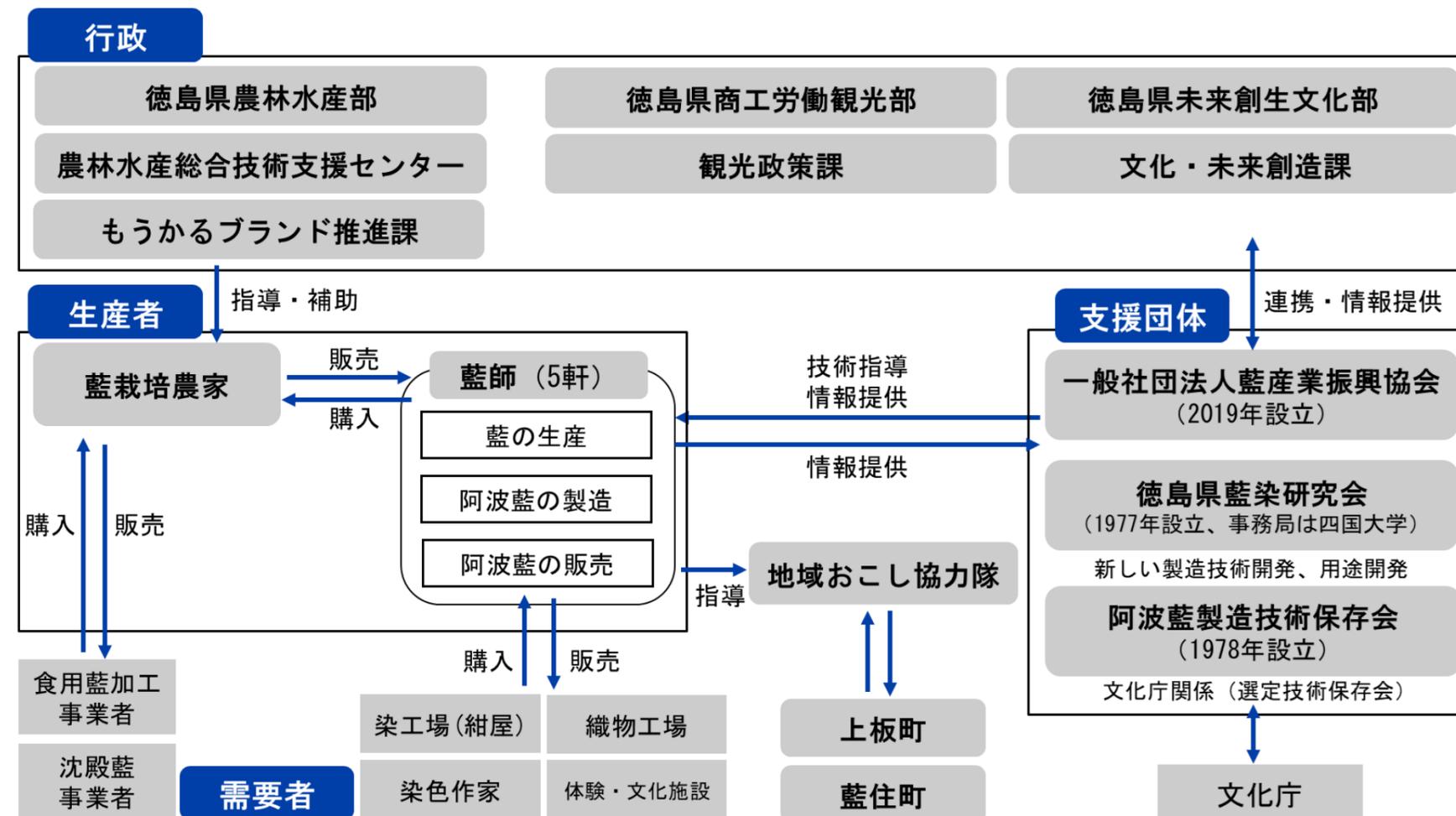


図3. 徳島県の藍産業における主体の関係図 注：資料や聞き取り調査をもとに筆者作成

研究の対象①：藍産業の関係主体

先行研究や聞き取り調査などにより藍生産に関する主体を図3の通りに整理した。本研究では、徳島県の藍産業に関わる主体として、「行政」「支援団体」「生産者」「需要者」を対象とする。

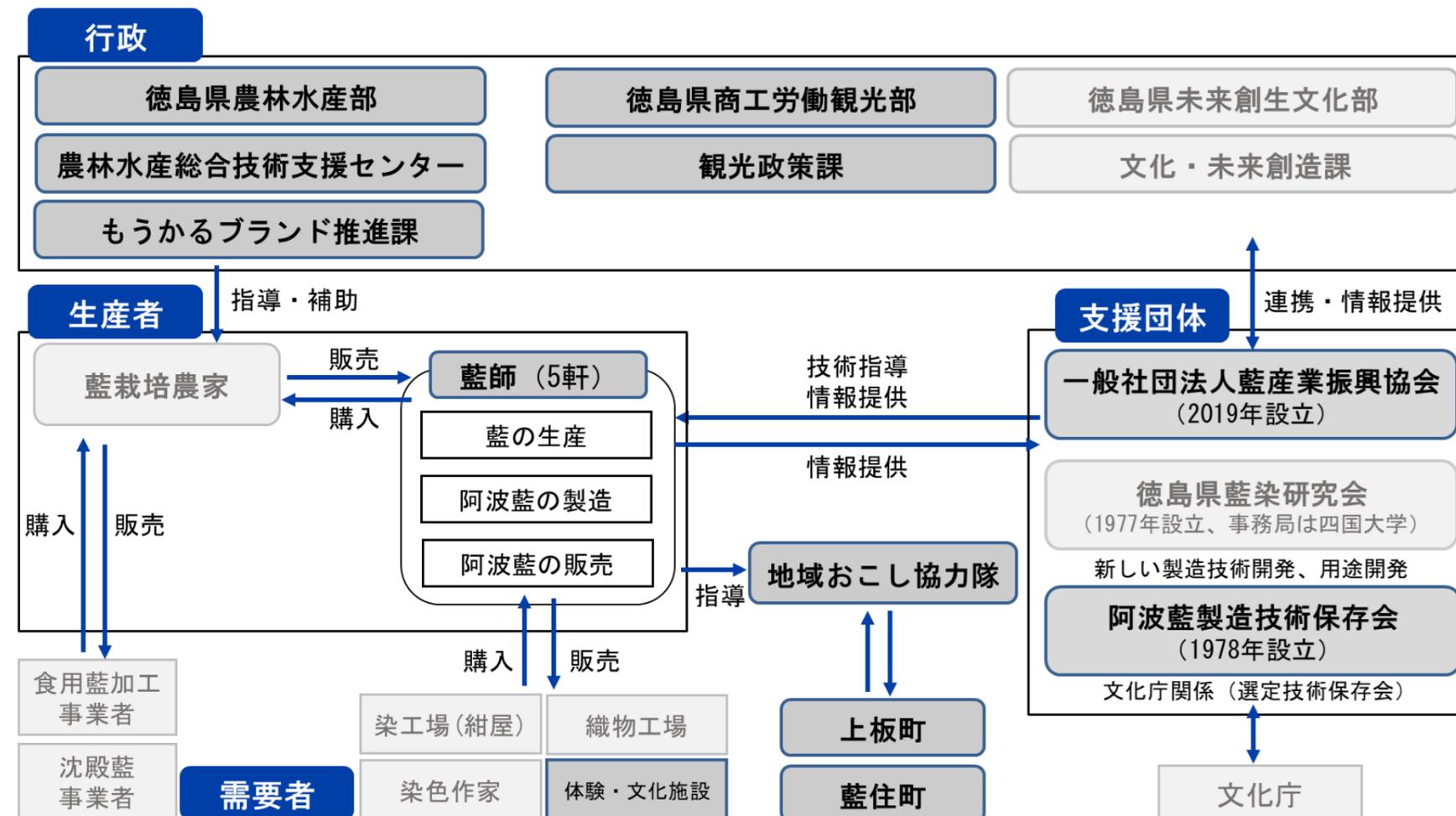


図3. 徳島県の藍産業における主体の関係図 注：資料や聞き取り調査をもとに筆者作成

研究の対象②：新規参入主体の動向

近年、地域おこし協力隊を経て、自らタデ藍を栽培し、すくも（染料）に加工する新たなスタイルが若者を中心に見られる。また、需要側では染色工房が増加傾向にある（3月聞き取り調査より）。そのため、栽培から染色までを一貫して行う若手作家も対象とし、新たな藍産業の構造についても明らかにする。

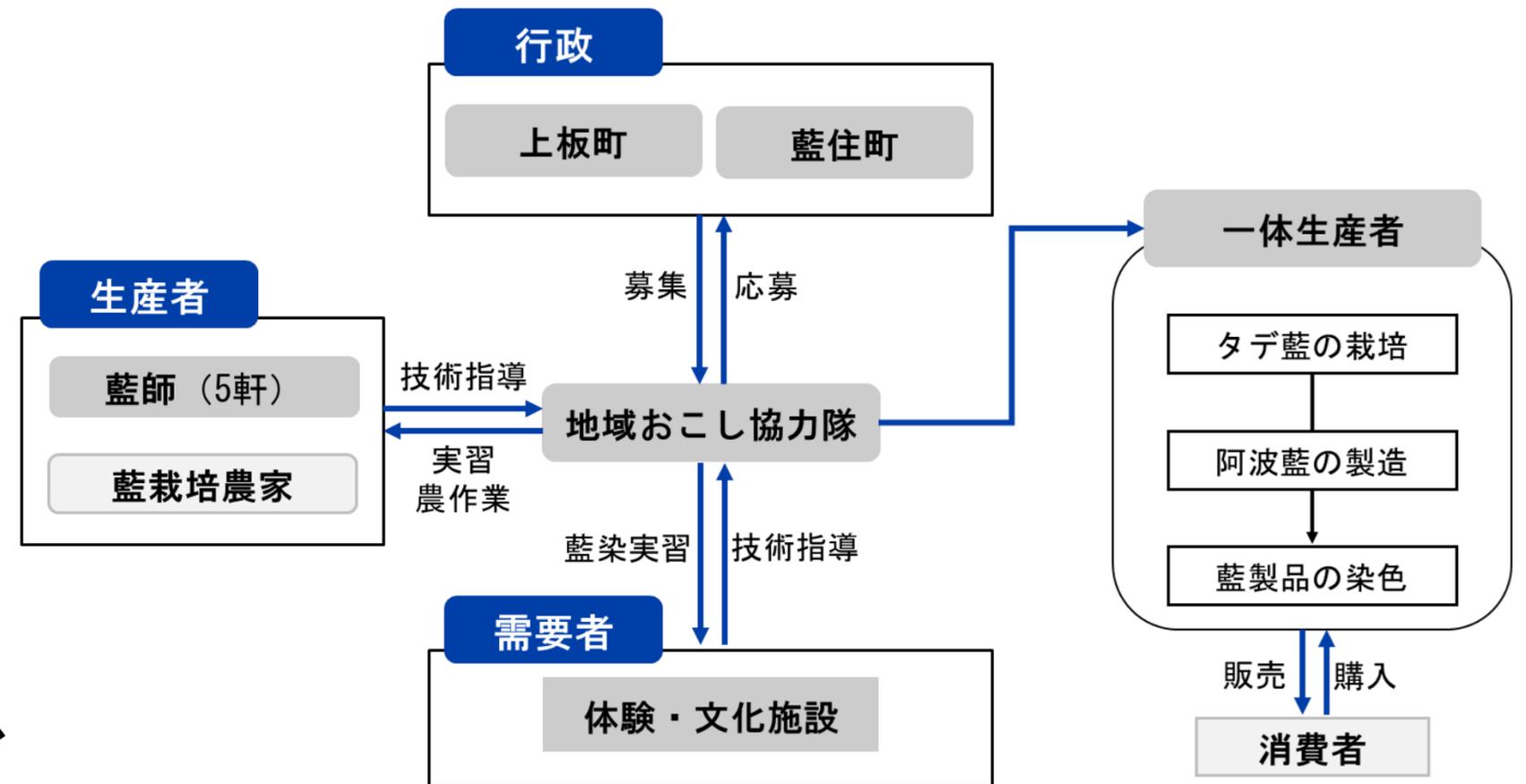


図4. 地域おこし協力隊に関わる主体の関係図
注：聞き取り調査をもとに筆者作成

徳島県の藍産業に関する年表

表2. 阿波藍産業に関する年表

年	1967	1977	1978	2012	2013	2016	2017	2018	2019
関係主体	徳島県 農林水産部	徳島県工業 技術センター 四国大学	文化庁 上板町 藍師	上板町			徳島県	藍住町	文化庁
出来事	「徳島県阿波あい生産復興部会」設立	「徳島県藍染研究会」設立	文化庁が阿波藍（すくも）製造技術を「選定保存技術」に認定 「阿波藍製造技術保存会」設立	上板町で地域おこし協力隊が活動開始	沈殿藍・食用藍等の藍の新たな活用方法に注目が集まる	2020東京五輪エンブレムに藍色が採用される	「とくしま藍の日を定める条例」が制定	藍住町で地域おこし協力隊が活動開始	「一般社団法人藍産業振興協会」設立 「藍のふるさと 阿波」日本遺産に認定

調査状況

表3. 聞き取り調査対象一覧

対象者		主なヒアリング内容	調査方法	実施日時
行政	徳島県	もうかるブランド推進課	オンライン	2023/3/17
		観光政策課	対面	2023/3/28
		農林水産総合技術支援センター	対面	2023/11/28
	藍住町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍関連部署と支援体制、業務内容 ・ 藍の生産状況、藍産業の現状 ・ 藍産業に関する支援事業 ・ 藍関連主体との関係性 ・ 近年の藍産業の動向 	対面	2023/11/28
	上板町		メール	—
生産者	藍師 ・ 阿波藍製造技術保存会に所属する2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿波藍（すくも）の生産状況と課題 ・ 阿波藍の販売状況、取引先 ・ 阿波藍の供給と需要 ・ 後継者育成、技術継承について 	対面	2023/3/29
	一体生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿波藍の生産、利用状況 ・ 年齢構成 ・ 工房に関する事項 	対面	2023/11/27
			オンライン	2023/12/11
			電話	2023/12/26
藍住町地域おこし協力隊（4名）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募動機 ・ 藍に興味を持ったきっかけ ・ 近年の若者人気の要因 	対面	2023/11/28	
需要者	体験施設 藍住町歴史館「藍の館」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営体制 ・ 来館者の傾向 ・ 藍関連主体との関係性 	対面	2023/3/29
支援団体	阿波藍製造技術保存会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容と目的 ・ 後継者状況 ・ 藍師に関する事項 	対面	2023/3/29
	一般社団法人藍産業振興協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容 ・ 支援体制 ・ 近年の藍産業の動向 	オンライン	2023/11/2

アンケート調査

配布方法

本調査では、一般社団法人藍産業振興協会に協力いただき、藍染め工房を対象にGoogle FormsのURLを添付したメールの送信及びアンケート用紙の郵送により回答を依頼した。

表4. 主なアンケート調査項目

藍染め工房に関する事項		すくも（染料）の利用と調達に関する事項	藍製品に関する事項	染師に関する事項
藍染め工房名 ()	工房の所在地 (市町村)	年間の利用量（年間） () kg/ () 俵	販売方法 <input type="checkbox"/> 店頭販売 <input type="checkbox"/> オンライン販売 <input type="checkbox"/> 展示会 <input type="checkbox"/> その他	年齢 () 代
工房の開始年 () 年	従業員数 () 名	調達方法 <input type="checkbox"/> 藍師から購入 <input type="checkbox"/> 自家生産 <input type="checkbox"/> その他	販売している藍製品 <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 衣類雑貨 <input type="checkbox"/> 食器 <input type="checkbox"/> インテリア <input type="checkbox"/> その他	出身都道府県 ()
工房の形態 <input type="checkbox"/> 作品販売 <input type="checkbox"/> 藍染め体験 <input type="checkbox"/> その他	藍染料の種類 <input type="checkbox"/> すくも <input type="checkbox"/> 沈殿藍 <input type="checkbox"/> その他	供給量について <input type="checkbox"/> 足りている <input type="checkbox"/> 入手可能であれば欲しい <input type="checkbox"/> 不足している <input type="checkbox"/> その他	販売先 <input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 小売店 <input type="checkbox"/> その他	工房を開業した経緯 ※自由記述

調査結果：行政

表5. 行政への聞き取り調査結果

調査対象者	徳島県			市町村	
	もうかるブランド推進課	農林水産総合技術支援センター	観光政策課	藍住町	上板町
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍の生産振興（藍増産事業） ・ 藍収穫機の導入支援 ・ 農福連携による藍増産 ・ 国や関係団体からの調査報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍の品種育成 ・ 藍の成分や用途の研究 ・ 藍関連事業者との連携 ・ 技術的な相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍、物産の振興及び販路拡大 ・ 徳島とくどくターミナルの運営 ・ 伝統的工芸品産業の振興 ・ 物産振興関係団体の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財の保存活用業務 ・ 日本遺産の業務 ・ 「藍の館」の管理、運営 ・ あいずみ藍工房の管理、運営 ・ 地域おこし協力隊に関する業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の藍農家への補助 ・ 地域おこし協力隊に関する業務 ・ 「技の館」の指定管理に関する対応や各種連携
支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍栽培に取り組む障がい者施設の支援 ・ 省力栽培マニュアルの作成 ・ ロゴマーク等の活用による藍の認知度向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タデ藍新品種の研究 ・ 高品質沈殿藍の開発 ・ タデ藍刈り取り機の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内外での展示販売会の実施 ・ 藍魅力発信展覧会 ・ 主要観光施設での販売展示会 ・ 東京ギフトショーなどでの展示商談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍に関するイベントの開催 ・ 町内の大型商業施設での藍染め作品展の開催 ・ 日本遺産フェスティバルへの出展 ・ 地域おこし協力隊の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上板町内の藍の作付け者に1反あたり1万円の補助 ・ 地域おこし協力隊の育成 ・ 「技の館」運営団体と藍に関するイベントの開催

葉藍の増産支援

藍農家の農業技術支援

藍製品の販路拡大

地域おこし協力隊・藍染め体験施設運営

藍の新たな用途開発

文化としての藍活用業務

藍農家への支援業務

注：聞き取り調査より筆者作成

調査結果：藍農家の動向

行政

➤ もうかるブランド推進課

「藍の統計概要」において藍の栽培面積が増加傾向にあるのは2015年度以降から**すくも以外の用途（沈殿藍・食藍）**に使用される**全ての藍栽培面積**を含めて集計しているため。

→**実際、すくもに使用される藍の栽培面積は減少傾向。**

藍農家は高齢者が多く、夏場の除草作業が体力的に厳しいため藍の栽培を辞めてしまう農家が多い。また、新規参入もほとんどない。

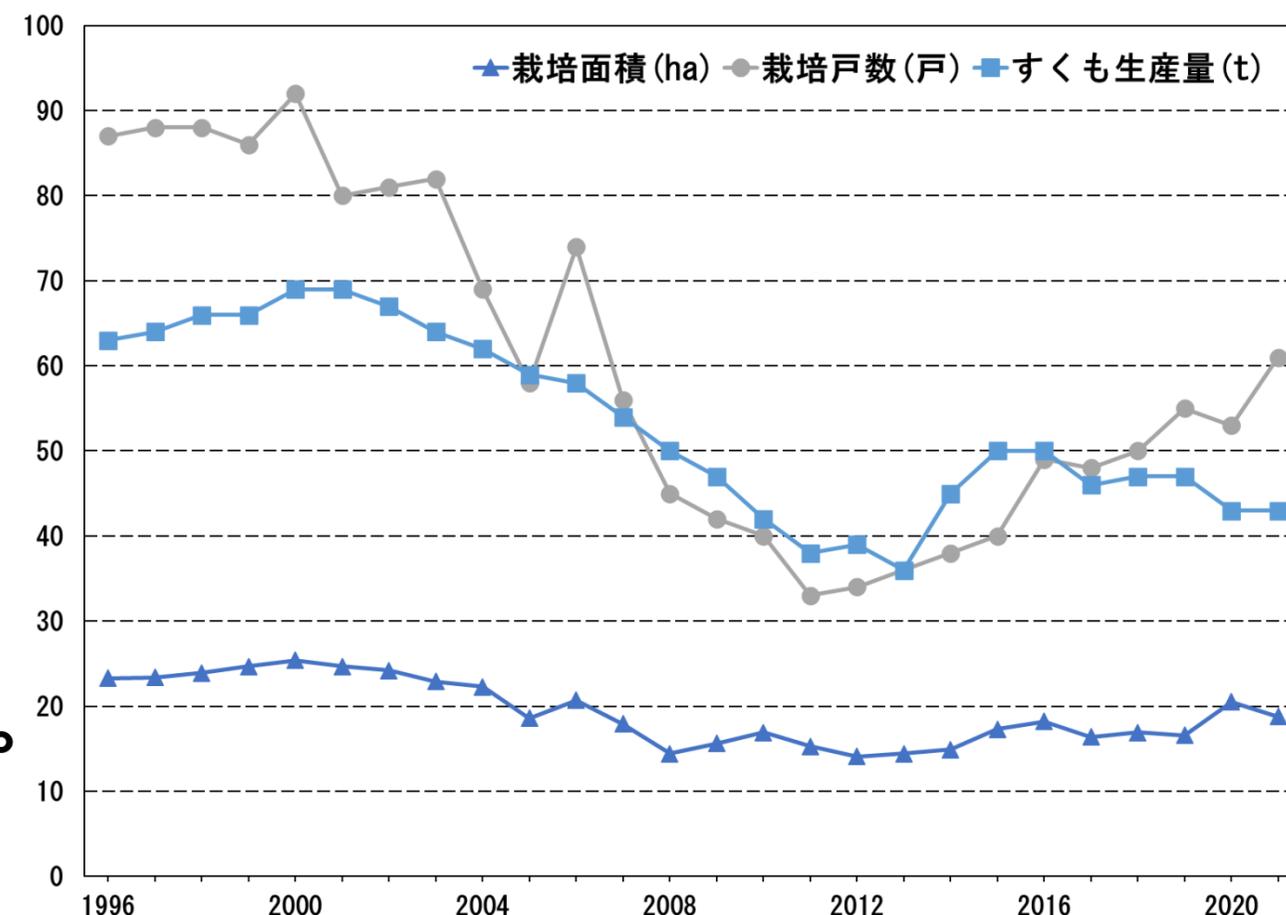


図5. 徳島県における藍の栽培面積・栽培戸数・すくも生産量の推移（令和5年3月現在）

資料：徳島県農林水産部「藍の統計概要」

注：資料をもとに筆者作成

※2015年度以降のすくも生産量は流通していないすくもを含む

調査結果：生産者（藍師）

生産者

➤ 藍師

- ・ すぐもの供給量が需要量に対して不足している。
→ 今までの取引先を優先し、余った場合に新規の顧客へ販売（予約制・数年待ち）
- ・ すぐもの生産量を増やすには、葉藍の生産量を増やすしかない。
→ N製藍所では、6床あるうち5床しか使用していない。（1床＝約1ha分の葉藍）
- ・ 藍は夏の作物であり、手間のかからない稲作に転向する農家も多い。



表6. 品目別10a当たり所得（経営指標より）

品目	粗収益（円）	経費（円）	所得（円）	労働時間
タデ藍	180,000 (240,000)	113,694 (113,694)	66,306 (126,306)	61
米	107,800	98,035	9,765	28

資料：徳島県みどり戦略推進課行政資料より

- ・ すぐもの製造技術については約40年前から途絶えることなく指導して欲しいという人が来ている。

調査結果：生産者（協力隊）

地域おこし協力隊

藍住町の地域おこし協力隊（4名）の方に聞き取り調査を実施した。

- ・ 4名の平均年齢は**26.8歳**であり、藍住町によると20代後半の方の応募が多い傾向にある。
- ・ 任期終了後の予定について、徳島県外で一体生産者になることを考えている方が多かった。

また、地域おこし協力隊員が共同で工房を開業する予定の方もいた。

<近年の若者に藍染めが人気な理由>

- ・ **SDGs**や**気候変動**への関心が高まり、自然由来の染料である藍染めに興味を持つ人が増えた。
- ・ SNSの普及により、情報発信が簡単にできるようになった。
- ・ 古着など服装に興味を持つ若者が増えた。
- ・ 藍染めは、誰でも体験しやすい伝統工芸であった。
- ・ 若者の**モノづくりへのハードルが下がっている**。



調査結果：生産者（一体生産者）

一体生産者

表7. 一体生産者への聞き取り調査結果

調査対象者	工房 開始年	工房の形態	一体生産者になった理由	製造技術の 習得方法	すくもの年間生産量	すくもの年間使用量	生産工程で大変なこと
Aさん (工房3軒)	2006年	作品販売 藍染め体験	藍師からすくもを購入できず、自ら生産するしか方法がなかった。	藍師から指導を受けた。	2t強 (50俵)	30俵 ※余ったすくもは藍染め体験に使用する。	タデ藍栽培の夏場の手作業での除草作業
Bさん	2020年	作品販売 依頼受注 藍染め体験	有機農業により栽培されたタデ藍ですくもを作れたかったため	週に1日藍師のもとに通い、1年間指導を受けた。	200kg 気候により年次変動する	200kg 足りない分は前年のストックで補う	タデ藍を手作業で葉と茎に分類する作業
Cさん	2021年	依頼受注	価格設定が自由にできるため	一体生産者Bさんと共同ですくもを製造しながら、学んでいる。	250kg	200~250kg	特になし

注：聞き取り調査より筆者作成

調査結果：需要者（体験施設）

需要者

➤ 藍住町歴史観「藍の館」（体験・文化施設）

運営主体：一般社団法人 しじゅうはちがん

2022年1月「藍の館」運営のために設立

<来館者の傾向>

- ・中高年の女性の方が多いが、若い男女も増えてきている。
- ・海外からの来館者については、中国人のツアー客が多く、ドイツ（団体）、タイなどから訪問がある。
- ・海外の方が全体の客に占める割合は数%（5%以下）である。
- ・近年、特に関西圏（大阪・兵庫）の若者の来館者が増加している。
- ・個人の客がほとんど（団体客は1～2割）で傾向が変化してきている。
- ・新型コロナウイルスの影響により来館者が激減した。（図5）

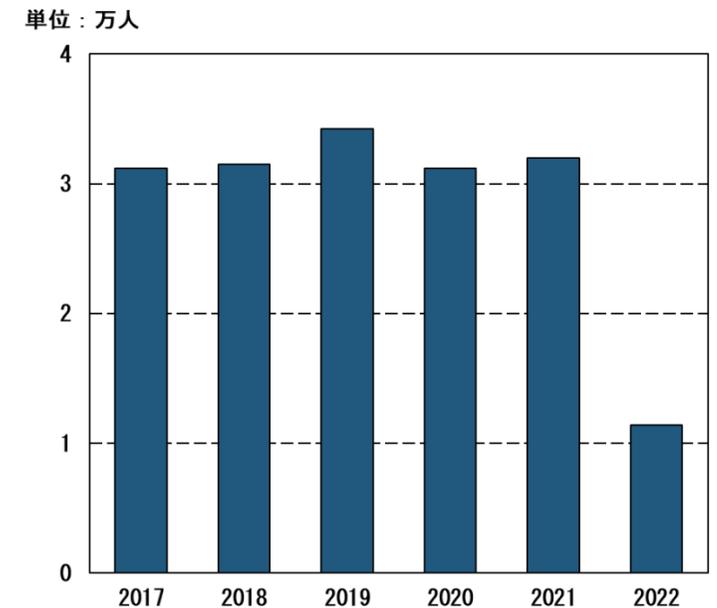


図5. 「藍の館」来館者数の推移



調査結果：需要者（藍染め工房）

藍染め工房

表8. 藍染め工房へのアンケート調査結果

回答者	藍染め工房に関する事項						すくもの利用と調達に関する事項		
	所在地	開始年	従業員数	開業方法	形態	藍染料の種類	年間使用量	調達方法	供給量
藍染め工房A	徳島市	1986年	4名	新規開業	作品販売 藍染め体験	すくも	30俵 (1俵=56.25kg)	藍師から購入	満足している
藍染め工房B	藍住町	1978年	1名	継承開業 (2代目)	作品販売 藍染め体験	すくも	4俵	藍師から購入	満足しているが、 入手可能であれば 欲しい (経済的に厳しい)
藍染め工房C	藍住町	2013年	2名	新規開業	作品販売	すくも	約250kg 4.5俵	藍師から購入	満足している

注：アンケート調査より筆者作成

調査結果：支援団体

支援団体

➤ 阿波藍製造技術保存会

- ・ 1978年に文化庁からすくもの製造技術が「**選定保存技術**」に認定されたことを契機に藍師（4軒）が**阿波藍製造技術保存会**として設立した。
- ・ 文化庁からは補助金が支給されるほか、年に一度調査官が派遣され、葉藍やすくもの生産量を調査している。
- ・ 現在では、**藍師（会員）**の全員に**後継者（準会員）**がいる。

➤ 一般社団法人藍産業振興協会

- ・ 2019年に設立し、藍染め工房や一体生産者など藍に関連する43事業者が所属している。
- ・ 活動内容は、会員に藍染め製品の販売依頼を仲介するほか、藍染め注文を振り分けている。



主体名	もうかるブランド推進課	農林水産総合技術支援センター	観光政策課	藍住町	上板町
主体区分	行政	行政	行政	行政	行政
要素分類	生産要素条件	関連産業・支援産業	関連産業・支援産業	関連産業・支援産業	関連産業・支援団体
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 農福連携の推進による藍増産 藍ロゴマークの活用推進 省力化栽培マニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> タデ藍刈り取り機の開発 タデ藍の新品種開発 技術的な相談対応 高品質沈殿藍の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 藍魅力発信展覧会の開催 観光主要施設での展示販売会 東京ギフトショーなどの展示商談会 	<ul style="list-style-type: none"> 町内での藍に関するイベントの開催 藍の館、あいずみ藍工房の管理・運営 地域おこし協力隊の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 町内の藍農家への補助 技の館の指定管理に関する対応や連携 地域おこし協力隊の育成
藍産業への関わり方					
主体名	タデ藍農家	藍師	一体生産者	地域おこし協力隊	藍染め工房
主体区分	生産者	生産者	生産者	生産者	需要者
要素分類	生産要素条件	生産要素条件	生産要素要件	生産要素条件	需要条件
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> タデ藍の栽培 タデ藍葉の販売 	<ul style="list-style-type: none"> すくもの製造、販売 後継者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> タデ藍の栽培、すくもの製造、染色までを一貫して行う 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培管理・収穫・すくも加工までの一連の作業工程の実習及び農作業 藍染技術習得のための藍染め実習 	<ul style="list-style-type: none"> 藍師からすくもを購入 藍製品の販売
藍産業への関わり方					
凡例	 行政 生産者 需要者 支援団体 その他の主体				

主体名	体験施設「藍の館」	阿波藍製造技術保存会	一般社団法人藍産業振興協会
主体区分	需要者	支援団体	支援団体
要素分類	需要条件	関連産業・支援産業	関連産業・支援産業
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染め体験の実施 ・ 地域おこし協力隊の研修受け入れ ・ 染め師の藍染め作品展の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者育成事業の支援 ・ 「文化庁日本の技フェア」にて実演、体験、展示の実施 ・ 記録保存（冊子作製） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍製品を販売する場を提供 ・ 藍染めの染色依頼を会員に振り分け ・ 藍に関するコンサルティング事業
藍産業への関わり方			
凡例	 行政 生産者 需要者 支援団体 その他の主体		

- **行政**・・・（県）農業技術支援，用途開発，販路拡大 （町）協力隊（生産者育成），文化振興
- **生産者**・・・藍師の継承，一体生産者の登場，若手生産者の台頭（協力隊を含む）
- **需要者**・・・藍染め工房が増加傾向
- **支援団体**・・・文化技術継承支援，事業機会創出

考察・結論

徳島県における阿波藍の産業構造として、生産要素条件の**タデ藍葉の生産量**によるところが大きい。すくもの製造技術は、藍師により次代に受け継がれている。

また、近年、**環境問題への関心の高まり**や**モノづくりへの意識の変化**などの影響によりタデ藍の栽培から染色までを一貫して行う**一体生産者の増加**が確認できる。他方で、高齢化や重労働、買い取り価格などの問題を背景に**タデ藍農家が減少**している。

今後は、タデ藍の刈り取り機の導入や新品種の開発、葉藍の買い取り価格の上昇による**生産基盤の強化**を図るとともに、**沈殿藍の併用**により**農家支援に寄与**することで、阿波藍産業全体の振興に繋がる可能性がある。

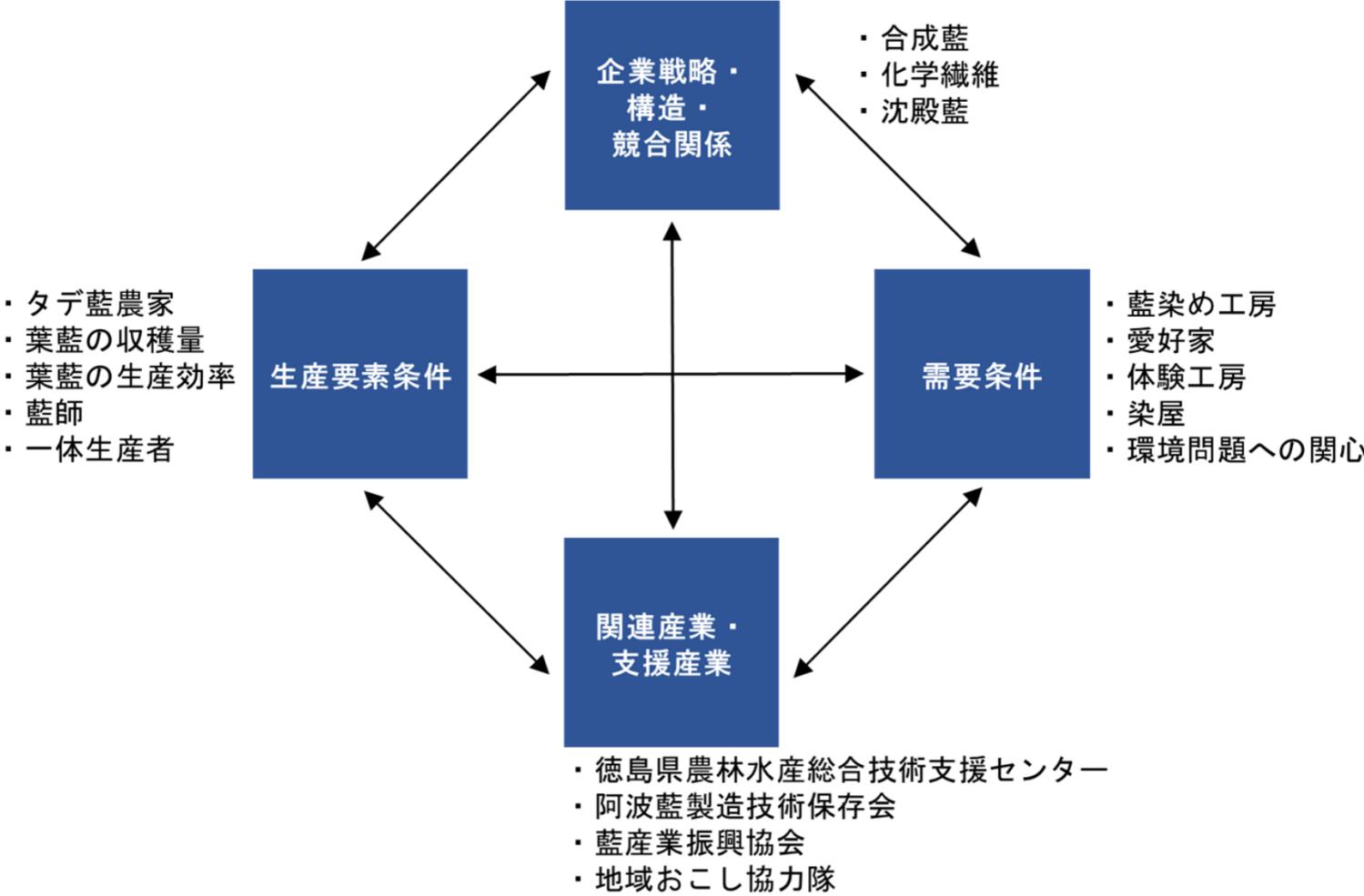


図6. 阿波藍産業のダイヤモンドフレーム分析
注：聞き取り調査をもとに筆者作成

引用文献・参考文献

- [1] 「公益社団法人徳島物産協会」公式ホームページ<<https://tokushima-bussan.com/crafts/awa-ai/>> (2023/12/6取得)
- [2] 「文化庁」日本遺産ポータルサイト<<https://Japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story081/>> (2023/12/6取得)
- [3] 川人美洋子 (2010) 「保存と復興のための団体」 『繊維学会誌 (繊維と工業) 』
- [4] 川人美洋子 (2010) 「消費傾向」 『繊維学会誌 (繊維と工業) 』
- [5] 鍛冶博之 (2021) 「現代徳島における阿波藍の衰退と振興」 『社会科学』
- [6] 「藍の統計概要」徳島県ホームページ<<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/sangyo/nogyo/5041064/>>
(2023/12/6取得)
- [7] 舩田晃, 真野洋介 (2015) 「伝統的工芸品産地における若手従事者及び従事者組織の地域まちづくりに対する役割-富山県高岡市を対象として-」 『都市計画論文集』 50巻,pp.953-960
- [8] 大木裕子 (2012) 「有田の陶磁器産業クラスター：伝統技術の継承と革新の視点から」 『京都マネジメント・レビュー』 21巻,pp.1-22
- [9] 前川洋平, 宮林茂幸, 関岡東生 (2013) 「伝統的工芸品産業の振興に関する法律の効果と課題」 『東京農業大学農学集報』
58巻,pp.85-91
- [10] マイケルE.ポーター (2018) 『[新版]競争戦略論Ⅱ』ダイヤモンド社
- [11] 吉原均、山崎和樹ら (2019) 『地域資源を活かす 生活工芸双書 藍』農山漁村文化協会